

# 香取遺産

Vol. 13

## 「九州大名ゆかりの墓所」

### 鍋島氏の遺跡

上小川の円通寺に肥前鹿島藩鍋島氏ゆかりの墓所があります。

鍋島氏は、江戸時代佐賀地方で35万石余を領有していた比較的大きな外様大名で、薩摩・長州・土佐と並んで明治維新を推進した藩としても有名です。藩祖は直茂、初代藩主は勝茂（直茂の長男）です。鍋島藩には3つの支藩（鹿島・小城・蓮池）がありました。鹿島藩は慶長14年（1609）に直茂により創設され、その次男であった忠茂が初代藩主となりました。



▲市指定史跡の肥前鹿島藩鍋島氏墓所

円通寺の墓所内には、この初代鹿島藩主である忠茂を始めとする5基の墓石が横一列に建っています。

向かって右から、4代直旨・3代正恭・初代忠茂・忠茂妻・

2代正茂の順となっています。中央に建つ忠茂墓石は、高さ約180cm、五輪塔形式で、長年の風化で全体に損傷が見られます。銘文は磨滅により判読が困難ですが、正面には「得髓院殿悟叟浄頓大居士」という戒名と、「寛永元甲子年八月四日」という没年が刻まれています。忠茂は晩年病氣療養のため、上小川に住み、41歳の若さで当地にて歿しました。

### 鍋島氏と矢作領

慶長5年（1600）、徳川家康などの東軍が勝利した「関が原の戦い」では、鍋島家は佐賀で静観していましたが、勝茂が西軍に味方したため当家の立場が危うくなりました。これを憂慮した直茂は次男忠茂を家康の嫡子である秀忠の小姓として差し出しました。忠茂はその忠勤ぶりにより、幕府から下総矢作領5千石を賜り領地となりました。鹿島藩が創設される前のことでした。

忠茂の歿後、嫡子の正茂が鹿島領・矢作領合せて2万5千石を継ぎますが、故あって寛永19年（1642）に鹿島藩主の座を返上し、矢作領の5千石をもって鍋島氏は徳川家の旗本となり、5代長行の、元禄11年（1698）に三河国に移されました。



▲丸厨子に安置された観音像

### 指定史跡に

円通寺は、忠茂代の元和2年（1616）に菩提寺として再建されました。本堂は嘉永年中の火災により焼失し、現在は観音堂一宇が建てられています。この観音堂は大正12年（1923）に鹿島藩主の子孫が先祖供養のために建立・寄進した建物です。

昭和59年（1984）9月1日、鍋島氏の墓所は「肥前鹿島藩鍋島氏の遺跡」として市指定の史跡となり、忠茂夫妻と正茂、直旨の4つの位牌、金銅製観世音菩薩立像1体も指定されました。この観世音菩薩像は約7cmの小さな仏像で、鍋島家の家紋である杏葉を扉に配した丸厨子に安置されています。口伝によれば、この観音像は忠茂の守護仏で、もともと兜の鍬形台正面、篠垂れのところに取り付けてあったものだそうです。